



郵便
報知新聞
 第五百廿五号

新海の獄に啓助由蔵と云ふ兩個の悪漢ありて共小破牢せんと約束し、由蔵の懲役多ければ六十日ほど出奔せしむ。或夜風雨を乗じ紛き長き棒の先小鋸と出刃庖丁と結付て便て堀堀と糸と獄小近き格子の内一件の品と差入音を潜し我等の寺町通真宗寺の縁の下ふ忍び居るに速に來りて寺を去り去まり然るに昨日啓助の様子怪しと目付別人を入替りて早速奸謀發覺て其夜一個を罪人体仕立彼処に遣し偽く由蔵を釣出し忍び繩を付りて惡物巧と計ると豈終に獄更に計らるたり

松林伯圖記



金福堂

大橋
 元田彫長

